

マレーシア短期留学のススメ



文責：酪農学園大学2年 小林麻衣

こんにちは！機関誌部門の小林麻衣です。私は2011年8月～9月にかけて2週間マレーシアに短期留学してきました。普段日本では見ることのできない様々な野生動物を見ることができ、刺激的かつ良い経験になりました。その一部分ですがみなさんに紹介できればと思います。

☞そもそもなぜマレーシアに行こうと思ったのか？

大学の他学類のプログラムで野生動物、植林ボランティアというものがあり、もともとエキゾチックアニマルに興味があったのと、当時1年生で特に専門科目の勉強もなく時間があつたため、思い切って申込みをしました。

☞具体的にマレーシアで何をしたのか？

1、 現地のガイドさんに原生の植物をひたすら教えてもらう。

マレーシアのボルネオ島は世界最古ともいわれるジャングルを保有しておりエキゾチックな植物や花々が豊富です。(世界最小のランや世界最大の花であるラフレシアなどが存在する)

2、 ひたすらリバークルーズしながら野生動物を観察する。

5日間、現地ガイドの下でリバークルーズしながら鳥や動物、植物を観察しました。

カニクイザル、テングザル、ボルネオゾウなどなど本当に様々な野生動物に出会えました。(写真は舟から撮ったボルネオゾウ。時期が違えばめつたに遭遇できないらしく、運がよかった。)



3、 オランウータンのリハビリテーションセンター見学



ここでは孤児や不法にペットとして飼育されていたオランウータンを引き取って、野生に戻す取り組みをしていました。保護されたオランウータンは野生に戻されはするが、

半数近くはエサが簡単に手に入るなどの理由から施設に戻ってくるのだそうです。至近距離でオラウータン観察が可能である反面、人との距離が近すぎるのではないかと感じました。この施設には獣医師が勤務しており、人獣共通感染症などの予防などにも尽力していました。

4、 植林活動

マレーシアは世界最大のパーム油の原産国です。しかし近年大規模なプランテーション開拓等の理由で熱帯雨林の伐採が行われており、生態系に大きな影響を及ぼしています。私達も些細ではありますが植林ボランティアに参加してきました。

5、 現地の村にホームステイ

朝鳴いていたニワトリが夜にはいない・・・！などショッキングなことがあったり、手で直接ご飯を食べたり、お風呂の代わりにマンディ(水浴び)をしたりなど現地の文化を体験できました。(写真はホストファミリーと)



終わりに

マレーシアは、野生動物・植物分野ではかなりの先進国であり、日本においてエキゾチックアニマルや野生動物に関わる獣医師になる難しさ、技術不足などを痛感しました。

少しでもエキゾチックに興味があるならばまずは本場を見に行ってみて欲しい！と思います。

動物園獣医師を目指す人にも勧めたいです。

また、獣医の領域だけに囚われず、経済や環境などの世界規模の問題にも発展していることが分かると思います。それらについて考えるきっかけにもなりました。

まとまった休みが取れる学生の今がチャンスです！思い切って海外へ行ってみたいはいかがでしょうか。